

東建パブリニュース

平成30年3月23日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成30年3月20日 住宅新報 P.10

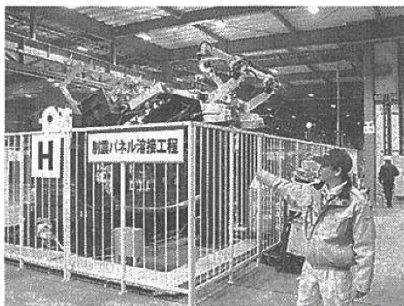
●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

東建グループ 制震フレームでライン新設 生産能力 5倍に向上

東建グループのナスラック（名古屋市中区、左右田 深谷工場では東建コーポレーションの主力商品である高耐震鉄骨造アパート「シエルシリーズ」に使用される重軽量鉄骨、木質建材、鋼管杭などを製造。制震フレームは高耐震鉄骨造「シエル・ロココモダンX」で使用されている。NK深谷工場の石川裕巳



④ 深谷工場外観



⑤ 新設ラインを説明する石川副工場長

副工場長・リーダーは「ラインの新設には予算の承認から約1年、設計・着手以来、半年かけた。入手困難なパーツもあった」と振り返った。制震フレームは、高分子ゴムを挟み込んだ粘弾性ダンパーを中央部に装着しており、地震のエネルギーを吸収する（特許取得済み）。「ロココモダンX」では、この制震フレームに高耐力量フレームを併用させることで、建築基準法で要求される1・5倍、最高基準の耐震性（耐震等級3）を確保。震度6程度の揺れを震度4に軽減させることが可能だ。

今回、約1億8000万円を投資し、ラインを新設。このラインは溶接ロボット4台、ハンドリングロボット1台、組立治具1台で構成。加えて視覚カメラ3台を搭載。「組立部材にQRコードを付け、品種を判別

するカメラが2台、組立精度を確認するためのカメラ1台を搭載」（石川副工場長）することで生産性と精度の向上を促す。新設ラインは2階建てアパート（8世帯分）で年間480棟分（枚数換算で2400枚）の制震フレームを生産。従来、手作りで1日2枚程度生産してきたが、自動化ラインで生産能力は約5倍に向上する。

制震フレームはこれまで深谷工場と神戸工場で製造してきた。今回のライン新設で深谷工場に生産を集約し、二重投資を回避するなど柔軟な生産体制を築く。制震フレームは07年に開発、10年に特許を取得。16年にコストダウンや改良を加えることで、商品力が向上。販売数も増えたため、今回のライン新設に至った。シエルシリーズの約6割に制震フレームを標準搭載している。